Ⅴ　現職教育

１　学校研究

（１）全体構想

学校の教育目標

『知性と創造力に富み、心身ともに健康でたくましい生徒の育成』
【めざす生徒像】
・確かな学力を身に付け、一生懸命に取り組む生徒（知）
・思いやりがあり、協力奉仕のできる心豊かな生徒（徳）
・命を大切にし、進んで体を鍛えるたくましい生徒（体）
・集団の向上をめざし、規則を守る礼儀正しい生徒
・母校に愛着と誇りを持ち、人と地域を愛する生徒

生徒の実態

全体的に温厚で親しみやすく、素直である。また、礼儀正しく、学習や部活動などの諸活動にまじめに取り組む生徒が多い。その反面、物事に対して見通しを持って取り組む力、人に頼らず自分で考え、判断する力、自己表現する力がやや弱い。失敗することを恐れて自信を持って考えを主張できない生徒も多い。

教育の今日的課題

グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな事態に直面している。2030 年の社会やその先の豊かな未来において、一人ひとりの子供たちが、自分の価値を認識すると共に、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、学校教育が果たすべき役割を考えていかなければならない。

このような状況の中、学力については、「社会に開かれた教育課程」のもと、学力の三要素「基礎的な知識及び技能」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」から構成される「確かな学力」のバランスのとれた育成が重視される。

研 究 主 題

「自ら考え　豊かに表現する生徒の育成」
～伝え合う力を高めるための授業づくりを通して～

研 究 仮 説

学習指導要領のねらいに沿った「確かな学力」の向上を目指す。
そのために、
１．生徒が安心して自己表現や表現活動ができる質の高い学習集団づくり
２．主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫・改善
３．新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実
これらの面からの取組を、互いに関連させつつ実践を継続していくことで、「自ら考える力」「豊かに表現する力」の育成につながるであろう。

≪仮 説 検 証 に 向 け て の 手 だ て≫

めざす生徒像：**自　ら　学　ぶ　生　徒**

教育課程：時間割の組み方、学校裁量の内容と総合的な学習の時間の配時等、工夫・改善をする。

教科	・　自ら考え、豊かに表現する力をつけるための場の設定と認め合い高め合う学習集団づくりの工夫 ・　「３つのステップ」(①予想②協働③振り返り・課題発見)を意識した授業づくり ・　基礎基本の定着と学力向上に向けた評価規準の作成と評価を生かした授業展開 ・　習熟度の程度に応じた少人数指導等の工夫改善	総合的な学習の時間（ＦＴ）	課題探究学習や体験学習を通して、次の３つの力を養う。 ・知識及び技能 ・思考力・判断力・表現力等 ・学びに向かう力、人間力

生きる評価の工夫
生徒の学習活動に生きる評価を工夫する。

安心して話し合いができる学級・学年づくり
生徒指導の３機能を重視する。
（自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係）

教師の確かな支援
生徒が主体的・協働的に学ぶことができるように、指導、助言、援助する。